

平成29年8月2日
健康増進課 感染症対策担当
担当者 南、横尾
内線 1839、1851 直通 0952-25-7075
E-mail: kenkouzoushin@pref.saga.lg.jp

マダニによる感染症に注意しましょう

～県内でSFTSの患者が確認されました～

県内で、重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome:以下「SFTS」という。）の患者（通算4例目、5例目）が確認されました。

SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。

感染予防対策としては、マダニに咬まれないようにすることが重要です。

草むらや藪等マダニが多く生息する場所に入る場合には、マダニに咬まれないよう長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくし、十分な対策を講じてください。

秋まではマダニの活動が盛んな時期ですので、特に御注意ください。

記

1 届出患者の状況

患者	年齢・性別	届出年月日	備考
4例目	中学生男性	平成29年7月27日	唐津市在住 発症日：7月21日 症状：発熱、頭痛、下痢、 血小板減少、白血球 減少、リンパ節腫脹、 紫斑
5例目	60歳代・女性	平成29年8月1日	鹿島市在住 発症日：7月23日 症状：発熱、下痢、血小 板減少

※4例目、5例目の患者間に関連はありません。

2 届出患者の経過

(1) 4例目：7月21日（金曜日）から発熱等の症状があり、7月23日（日曜日）に県内の医療機関を受診し、発熱、頭痛、下痢、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹、紫斑の症状から医療機関に入院。検査を実施したところ7月27日（木曜日）にSFTSの感染が判明しました。

患者は現在、快復に向かっています。

(2) 5例目：7月23日（日曜日）から発熱、倦怠感等の症状があり、7月27日（木曜日）に県内の医療機関を受診し、発熱、下痢、倦怠感の症状から医療機関に入院。検査を実施したところ8月1日（火曜日）にSFTSの感染が判明しました。

患者は現在、快復に向かっています。

3 県の対応

県民への情報提供と注意喚起

(1) 庁内関係課及び市町に対し情報提供を行うとともに、関係機関、団体等への注意喚起を依頼

(2) 引き続き、県（県庁、感染症情報センター）のホームページで情報提供と注意喚起

(3) 99さがネットにより、医療機関へ情報提供

参考

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

（１）発生状況（平成２５年３月４日から感染症法で四類感染症に指定された）

SFTSウイルスに感染することにより引き起こされる病気で、佐賀県では通算５例目、全国では平成２９年７月２６日現在、２８０例（※）発生している。※佐賀県の今回の事例は含みません。

佐賀県内での発生状況

	公表日	患者	備考（公表時の生存状況等）
1	平成 25 年 3 月 12 日	80 歳代 男性	生存 （平成 22 年 8 月発症）
2	平成 25 年 4 月 10 日	60 歳代 男性	死亡 （平成 24 年 6 月発症）
3	平成 26 年 9 月 2 日	70 歳代 女性	死亡 （平成 26 年 8 月発症）
4	平成 29 年 8 月 2 日	中学生男性	生存 （平成 29 年 7 月発症）
5	平成 29 年 8 月 2 日	60 歳代 女性	生存 （平成 29 年 7 月発症）

（２）感染経路

ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染する。

（３）症状

ウイルスを保有しているマダニに咬まれた後、6日～2週間の潜伏期間を経て、主に発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が出現する。

時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸器不全症状、出血症状（歯肉出血、紫斑、下血）を起こす。

（４）感染予防

マダニに咬まれないようにすることが重要。

- ・草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくする。

- ・ D E E T (ディート) という成分を含む虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があると言われています。
- ・ 屋外活動後はマダニに咬まれていないかを確認する。
- ・ 吸血中のマダニを見つけた場合は、無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるので、できるだけ医療機関（皮膚科）で処置する。
- ・ マダニに咬まれた後に、発熱等の症状があった場合は医療機関を受診する。
- ・ 屋内以外で飼育している犬、猫等のペットについては、ペットの健康を守るためにも、ペットのマダニは適切に駆除する。ペット用のダニ駆除剤等があるので、かかりつけの獣医師に相談する。
- ・ 散歩後にはペットの体表のチェックを行い、マダニが咬着している場合は、無理に取らず、できるだけ獣医師に除去してもらおう。

※参照：「重症熱性血小板減少症候群に関する Q&A」厚生労働省

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html